中国少数民族伝統体育運動会の開催目的に関する一考察

A study of National Traditional Games of Ethnic Minorities of the People's Republic of China

1k07a027-2　上垣夏乃子

指導教員　主査　寒川恒夫先生　副査　石井昌幸先生

[目的]　多民族国家中華人民共和国（以下中国）は、現在総人口の約 92 パーセントを占める漢族と、残りの 8 パーセント 55 の少数民族で構成される。数としては漢族が圧倒的に上回るが、少数民族人口だけで 1 億人を超え、日本の総人口に匹敵する。また各少数民族は歴史、文化背景などの特徴を異にし、中国ではこういった諸少数民族政策に対する融和政策の点からも、建国以来少数民族スポーツの展開を政府の重要課題と位置付けてきた。

本論文は少数民族政策の一環として現在中国で 4 年に一度開催されている全国少数民族伝統体育大会（以下少数民族運動会）の開催目的の変化を国内政治動態と少数民族スポーツ政策から考察していくものである。

[方法]少数民族運動会とは、少数民族選手が民族スポーツを競い、またパフォーマンスとして披露しあう全国型スポーツ大会であり、国家民族委員会と国家体育総局の共催で行われる。1953 年の第一回大会を始まりに、1960、70 年代を除き 1980 年代以降はほぼ 4 年に一度開催され、2011 年の大会で第 9 回大会を迎えた。本論文では、第 9 回大会への参与観察をもとに、まず第一章で建国以来の少数民族運動会を通史的に考察し、少数民族運動会がその時代の国内政治情勢や少数民族スポーツ政策を反映していることを論じる。第二章では開催地に焦点をあて、大会を利用した都市開発による経済発展、市民やボランティアへの少民族への認識，理解を図る活動を論じる。これによって、省にとって少数民族運動会を行う目的がより明確になると考える。第三章では今大会からの実施された表彰制度の変更と漢族不参加から現在、そして今後の開催目的について論じる。併せて参与観察を通して明らかになった大会運営上の問題点と表彰制度の矛盾点にも触れていく。

[結果]この少数民族運動会は、建国以来少数民族融和という一貫した目的で行われてきている。しかし、1990 年代以降は改革開放政策に従って、スポーツにも経済的な目的も求められるようになり少数民族運動会もこの原理が導入された。特に開催地にとっては、経済発展の遅れた少数民族地域の経済に大きく貢献する第 9 回大会の開催地である貴州省でも、今大会に合わせて都市開発が進めてられている。

またこの少数民族運動会の競技の好成績は省のステータスの向上に繋がり、民族工作（少数民族事業）の評価となるという一面がある。しかし今大会では「金メダル授与を失くし、参加を重視する」という表彰制度上の変更があり、今までの成績重視に逆行するような措置が取られた。この表彰制度の変更については、近年、中国政府が掲げている中華文化を国内外へ発信していく政策と深くかかわっている。2007 年の第 17 回共産党大会の報告で出された「国家のソフトパワーを向上させる」という政策をうけ少数民族スポーツも発掘、保護、発展の対象になり、今までのように競技成績が重視されなくなった。つまり今回の表彰制度の変更は、今まで成績を重視していた民族工作の評価をやめ、今後少数民族スポーツを国内外に発信していくとい方向転換の表明であったといえる。

[考察]少数民族スポーツ運動会を建国から文化大革命までと文化大革命以後の二期に分ける。第一期における開催目的は、概ね民族団結という基本目的なものである。第二期にはこれに加えて 90 年代以降の経済発展との結びつきが重要視されていることが分かる。そして今後は中国文化に対する政策を受けて、少数民族スポーツをソフトパワーとして国内外に発信していくという新たな目的が加わったといえる。